修士論文要旨

地域住民のソーシャル・キャピタルと健康度との関連

Relationship between social capital and health of local residents

田口　奈於（Nao Taguchi）　　指導：扇原　　淳

【はじめに】近年，ソーシャル・キャピタル（以下SC）と健康との関連が注目されており，SCが主観的健康や精神的健康に影響を与えることが報告されている．本研究では，一自治体を対象として，地域単位ごとのSCとその影響要因について明らかにすることを目的として，SC醸成を目的としたプログラムや行政施策開発に資することを目指した．

研究１：所沢市における「誰もが住み続けられるコミュニティー」構築に関するベースライン調査

【目的】現段階での所沢住民の支え合い意識や地域特性を把握することを目的とした．

【対象・方法】調査対象は埼玉県所沢市在住の40歳以上の男女9099名とし，14地域包括支援センター管轄区域ごとに住民基本台帳から無作為抽出した．2013年８月に，郵送法による質問紙調査を行った．質問項目は，ご近所・地域との関係に関する項目，地域行事や活動への参加に関する項目，地域のつながりや自身の生活習慣に関する項目，健康に関する指標としてWHO-QOL26等で構成した．

単純集計後，性別と地域包括による二元配置分散分析を行い，有意差の有無を調べた．地域包括による有意差の検定には多重比較（Tukey-Kramer法）を用いた．交互作用がみられた項目には，交互作用の検討を行った．また,ピアソンの積率相関分析を行った．分析にはSPSS Statistics22（IBM）を用いた．なお，本研究は早稲田大学研究倫理審査委員会の審査の承認のもと実行した（申請番号2013-095）．

【結果・考察】3,143部回収（回収率34.5%）し，回答者の属性は男性40%，女性58%，平均年齢63.4（±12.3）歳であった．二元配置分散分析の結果,富岡地区や三ヶ島第1地区では，小手指第2地区と比較して「支え合いの意識」,「災害時の助け合い」,「近所の人への信頼」,「在住年数」が有意に高かった（$p<0.05$）．一方で，小手指第2地区の最終学歴は富岡地区と三ヶ島第１地区と比較して有意に高かった（$p<0.05$）．小手指第２地区では現在も仕事を続けている人が多く，地域活動に参加する時間がない可能性が考えられる．また，富岡地区と三ヶ島第1地区では，長年の近所付き合いから支え合いの意識が形成されていると考えられる．

相関分析の結果，「相談する相手」と「相談される相手」,「手助けする内容」と「手伝ってもらう内容」はそれぞれ正の相関関係にあり，互酬性の規範を顕著に表していた．

研究２：所沢地域住民のソーシャル・キャピタルと健康度との関連

【目的】所沢市におけるソーシャル･キャピタルと健康度との関連を把握することを目的とした．

【分析方法】＜SC変数の定義＞研究１のデータより，SCに関する15項目を用いて合成変数を作成した．反転項目を修正後，Kaiserの正規化を伴うプロマックス回転による主成分分析を行った．抽出した第一因子の主成分得点を個人SCスコアと定義し，４つの個人SCスコア群（最低群，低群，高群，最高群）に分類した．その他のSC指標として，支え合いの意識，信頼，地域組織参加頻度などを採用した．

＜アウトカム変数の定義＞主観的健康度（５件法）を「とても悪い」と「それ以外」に分類し，２値変数を作成した．WHO-QOL26は,WHOの採点の指針に従い,合計得点を算出し，４群（最低群，低群，高群，最高群）に分類した．そして,「最低群」を「不健康」とする変数を作成し，アウトカム変数と定義した．

＜交絡変数＞交絡変数として，性別，年代，BMI，最終学歴，通院状況，喫煙習慣，飲酒習慣，運動習慣を用いた．

＜解析方法＞SCとWHO-QOL26との関連について，交絡変数で調整した多重ロジスティックモデルにより分析した．分析には HALBAU7（株式会社ハルボウ研究所）を用いた．

【結果・考察】個人SCスコア「最高群」のQOL26合計「最低群」の割合を１としたとき，調整後オッズ比（95%信頼区間）は,個人SCスコア「高群」で1.599（1.121, 2.282）「低群」で3.129（2.232, 4.388）,「最高群」で5.634（4.057, 7.824）であった．「個人SCスコア」と「QOL26合計」の間に統計学的に有意かつ連続的な関連が認められた（$p<0.05$）．

本研究では「個人SCスコア」が「主観的健康度」だけではなく，「QOL26合計」にも関連していることを示した．

【今後の課題】「個人SCスコア」と「主観的健康度」の関連は，個人要因を除去したマルチレベル分析においても関連が報告されている．本研究ではマルチレベルモデルの検証までは至らなかったため，今後検証することでSCの測定指標の確立に貢献できると考える．

なお，本研究は，JSPS科研費・基盤研究（B），研究課題番号：25285170（代表・加瀬裕子）の一部として実施した．